

東京マラソンに大学生チャリティーランナーが出走 国際NGOプラン・ジャパンのユース・アドバイザー板倉美聡さんが インドの女の子に奨学金を寄付へ

2016年2月28日に開催される東京マラソンに、国際NGOプラン・ジャパンでユース・アドバイザーを務める板倉美聡さん(大阪大学法学部国際公共政策学科4年生)がチャリティーランナーとして参加します。板倉さんは、東京マラソンの寄付先団体でもあるプランが現在インドで進めている、「女の子のための教育推進プロジェクト」にチャリティとして寄付をします。

<世界各国に足を運ぶ行動派の大学生がチャリティーランナーとして出走>

板倉さんは、プランの方針や事業計画の意思決定に関わり、役員や職員にユース視点からアドバイスをするグループ、ユース・アドバイザー・パネル(Youth Advisory Panel、以下YAP)に2015年4月から参加し、インドネシアのYAPとの直接訪問を含めた連携を担当するなど活躍しています。以前から、国際協力学生団体の設立、米国大学院留学のほか、ウガンダ、ルワンダ、タンザニア、インド、ベトナム、パキスタンなどに足を運び、報告会やネットで現地の課題を発信する活動を続けている行動派です。東京マラソンにチャリティーランナーとしての参加を決めてから、関西でクラウドファンディングの呼びかけを開始。そのチャレンジ精神にプランの役員たちからも協力が集まりました。



開発途上の国々を訪問している板倉さん

<カーストにより差別されている貧困地域の女の子の子に教育支援を>

板倉さんが支援する、インドの「女の子のための教育推進プロジェクト」は、インド東部オディシャ州の15~17歳の女の子に奨学金を支給し、10年生を修了できるように支援するプロジェクトです。その他に、教師トレーニングの実施や、図書室・実験室を改修して、彼女たちの学習環境の改善も進めています。インドにおいて、中等教育の最終学年である10年生の修了資格を取得しておくことは、高等教育に進むにも就労するにもとても重要とされています。しかし、本プロジェクトの支援対象となる指定部族の子どもは、わずか20%しか中学校に就学しておらず、中学校に通い続けられても、上位カーストの女の子が10年生の修了試験に80%以上が合格しているのに対して、指定部族の女の子は68%しか合格できていない状況にあります。



東京マラソンを通じて、途上国への支援を訴えたいと語る板倉さん(中央)

板倉さんが寄付をすることで、3人の女の子が教育支援を受けられることになります。

板倉美聡(いたくらみさと)さんプロフィール

【出身】兵庫県

【所属】大阪大学法学部国際公共政策学科 4年生

【本人からのコメント】

「女の子が教育を受けることは、将来世代の母親たちが教育を受けることです。インドの女の子たちが自分で未来を選択して、彼らの子どもたちの未来にも大きな可能性がもたらされるように。そんな願いと世界中の女の子たちへのエールを込めて、精一杯走ります。『世界の女の子に、生きていく力を。』」

上記の件を貴媒体にて、ぜひお取り上げいただきたく、ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

Because I am a Girl キャンペーン: 国際NGOプラン(本部:英国)が展開するグローバルキャンペーン。途上国の女の子たちの問題を訴え、彼女たちが「生きていく力」を身に付け、途上国の貧困が削減されることを目指します。

このリリースに関するお問い合わせ先

公益財団法人プラン・ジャパン 広報担当 後藤/久保田

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22-11F

TEL 03-5481-6517 FAX 03-5481-6200 goto@plan-japan.org

世界の女の子に、生きていく力を。

